

令和3年度 授業改善推進プラン〈1年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- コミュニケーションが楽しいと思える分かりやすい授業を心掛けた。
→積極的に授業に参加する生徒が多い一方で、意欲的に取り組めない生徒も一定数いる。
- 帯活動において語彙活動やビンゴを導入し楽しみながら英語に慣れ親しむ時間を提供した。
→毎授業で実施することによりルーティーン化され楽しみながら取り組めた。
- 定期的に小テストや単語テストを実施した。
→生徒の理解度を把握し授業改善に活かすことができた。また生徒自身に自己評価させる機会を提供できた。

英語科における調査結果の分析

内容別 の結果分析	<p>○全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は良好な状況であると考えられる。</p> <p>○リスニング問題は概ね目標値を超えているが、身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取りその内容を理解する問題、ある場面での対話を聞きその概要を捉える問題の正答率は低い。必要な情報を聞き取る練習がたくさん必要であろう。また会話文を最初から最後まで集中して聞き取るリスニングスタミナを付ける必要性もある。</p> <p>○単語の問題は全て目標値を超えており正答率が高い。今後も語彙の拡充に努める必要がある。</p> <p>○英作文の問題は概ね目標値を超えているが、資料から英語を書き写す問題の正答率は低い。スペルミスなどの間違いを自分で見つけられるような学習者を育てたい。</p>
観点別の結果分析	<p>○「知識・技能」について、全体的に正答率は高かった。今後も新しい文法・語彙の指導に努めたい。</p> <p>○「思考・判断・表現」について、全体的に正答率は高かったが、リスニング問題の正答率が比較的低かった。細部に拘り過ぎずに大意を聞き取る練習が必要である。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」について、全体的に正答率は高かった。既習事項を自分に当てはめて自己表現する機会を今後も提供したい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識・理解をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
→英語が楽しいと思える授業を心掛ける。授業内で英語によるコミュニケーションの頻度を増やして、失敗を恐れな
い雰囲気を作る。
→暗示的知識を増加させるために、既習文法・語彙への接触回数を増やす。
→音読や暗唱を大事にして、英語のイントネーションやリズムに慣れ親しんでもらう。
→五つの領域をバランスよく育成できるよう配慮する。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
→必要な情報・概要・要点を把握し整理しまとめる機会をたくさん提供する。
→リスニング・リーディングにおいてインプット量をたくさん確保する。
→コミュニケーションを行う目的や場面、状況を提示し、それに応じてアウトプットする機会を与える。
→既習事項を活用して自己表現する機会を提供する。
- 3 主体的に取り組む態度を育む。
→自分自身の英語学習を自己調整する機会として、定期的に自己評価させる。また生徒自身に自分の習熟度を把握
させるためにも定期的に小テストや単語テストを実施する。
→生徒自身が将来どのような場面で英語を使用したいか想像させることにより生徒のモチベーションアップを図る。
→異文化理解の機会を提供し、海外に対する積極的な態度を育む。

令和3年度 授業改善推進プラン〈2年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- コミュニケーションが楽しいと思える分かりやすい授業を心掛けた。
- 英語学習に対する関心・意欲を高いまま維持している生徒が多い一方で、そうでない生徒も一定数いた。
- 学期に1,2回スピーキングテストを実施した。また英語を書く機会をたくさん提供した。
- あらかじめ準備ができるスピーチなどには積極的に取り組めた。しかし、即興で英語を話したり書いたりするのは依然として苦手と感じている生徒が多い。
- リーディングの時間を十分に確保し、リスニングのテストを单元ごとに実施した。
- 基礎は定着しつつあるので、インプット量を確保しつつ発展的な内容にも取り組む必要がある。
- 外国の文化を紹介したり自国の文化と比較させたりした。
- 言語・文化に対する知識・理解は深まりつつあるため、今後も継続して取り組みたい。

英語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ○全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好な状況であると考えられる。 ○リスニング問題は全て目標値を超えているが、英文の要点を聞き取る問題や聞き取った内容を資料に応じて答える問題の正答率は昨年度より低く、思考力や判断力を要するリスニング問題に慣れる必要性が明らかとなった。 ○知識・理解の問題は全て目標値を超えており、昨年度よりも正答率が高く、語形・語法・語彙の知識が概ね定着していると言える。 ○長文読解の問題は全て目標値を超えているが、内容や要点を把握する問題の正答率は昨年度より低く、概要を把握する練習が必要であると考えられる。 ○英作文の問題は全て目標値を超えているが、3文以上で説明する英作文の問題の正答率が昨年度より低く、まとまった英語を書く練習が今後必要であろう。
観点別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ○「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」について、全体的に正答率は高かった。英語を使ってコミュニケーションを取る機会を授業内で多く持ちたい。 ○「外国語表現の能力」について、全体的に正答率は高かったが、場面に応じて書く英作文の正答率が比較的低く、既習事項を内在化するための反復練習が必要であると考えられる。 ○「外国語理解の能力」について、全体的に正答率は高かったが、リスニング・読解を通じて概要を把握し整理しまとめることに慣れる必要がある。 ○「言語や文化についての知識・理解」について、全体的に正答率は高かった。今後も分かりやすい授業に努めた。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識・理解をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
 - 生徒が身近に感じられるようなトピックを取り上げ、分かりやすい授業を心掛ける。特に少人数授業を導入しているため、生徒一人ひとりの理解を確認しながら授業を進める。
 - スパイラル状の英語学習を心掛け、既習内容に何度も触れることのできるカリキュラムを意識する。
 - 音読を重視することで音声面を大事にする態度を育む。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
 - 必要な情報・概要・要点を把握し整理しまとめる機会をたくさん提供する。
 - インプット量を確保し、多読・多聴に取り組む。
 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況を提示し、それに応じてアウトプットする機会を与える。
 - 文章構成を意識してまとまった内容の文章を書けるように指導する。
- 3 主体的に取り組む態度を育む。
 - 自分自身の英語学習を自己調整する機会として、定期的に自己評価させる。
 - 異文化理解の機会を提供し、海外に対する積極的な態度を育む。

令和3年度 授業改善推進プラン<3年英語>

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 英語学習に対する意欲に生徒間の差があることは以前と変わらないが、簡単な英語での会話表現を帯活動などで反復して行うことにより、生徒たちに取り組みやすい授業を展開してきた。
- リスニングに関しては classroom English の使用を多くしたり小テストをしたりして、聞き取る能力を高めることができた。
- 語彙や語形語法に関しては、帯活動などに取り入れてさらに伸ばす必要がある。

英語科における調査結果の分析

内 容 別 の 結 果 分 析	<p>○今回も全体的に目標値を上回り、前年度までの学習効果は概ね良好と考えられる。</p> <p>○語彙の知識理解が伸びなかったことから、授業内に単語テストや多読などが不足していたと考えられる。</p> <p>○リスニングは、全体的には目標値をかなり上回ったが、文法事項の定着が不十分だったため対話文応答が伸びなかった。</p> <p>○長文を読み取る力はあるが、内容を把握した後の英問英答の正答率がかなり低かった。単語だけで答えることになってしまったことが原因と考えられる。</p> <p>○場面に応じた英文を書く問題の正答率がやや低かった。単語だけで話したり、覚えつつもりになっていたりして、書くことが不足していたことが考えられる。</p>
観 点 別 の 分 析	<p>○「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については全てで目標値を上回ったが、英語の質問に英語で答える問いに関しては前年度の正答率を大幅に下回ってしまった。</p> <p>○「外国語表現の能力」について、まとまった内容で説明する英作文の正答率は低くなかったが、前年度からの伸び率は低かった。</p> <p>○「外国語理解の能力」について、リスニングは概ね良好であった。しかし、様々な英文の読み取りに関しては前年度に比べ大幅に下回っているものが複数あった。</p> <p>○「言語や文化についての知識・理解」については、語彙に課題があった。授業内で語彙を高める活動が不足していた。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 知識・技能

- ・語彙力を高めるために単語を多く書く活動や単語テストなどを定期的に取り入れる。
- ・教科書を用いて、目標文を繰り返し復唱し、定着させる。
- ・文法の構造を理解させるために、教科書の基本本文を丁寧に解説する。

2 思考・判断・表現

- ・コミュニケーション能力向上のため、会話活動は短時間でも毎回行う。
- ・教室内英語を使用し、英問英答で教科書の内容が答えられるようにする。
- ・リーディングは強弱や音のつながりなどに注意しながら、繰り返し音読練習させる。
- ・まとまった英文を書けるように自己表現活動を増やす。またインタビューテストや発表(スピーチ等)を行う。
- ・意欲、関心のある生徒間に差があるため、関心を引く題材を用いわかりやすい授業を心がける。

3 主体的に学習に取り組む態度

- ・デジタル教科書の付録や動画などを見せて、英語を使用することの必要性を理解させる。
- ・誰もが積極的に参加できるように、帯活動で、定型のペア活動を取り入れる。
- ・日本や他国の文化に対する知識を深められるよう、教科書の内容に沿って資料を提示する。